REPORT

「頑張れ…新人たち!」

4月3日、54名の新入職員が厳かな雰囲気の中で入職式に臨みました。そこで式を迎えるにあたり目標を聞いてみました。

小倉リハビリテーション病院の温かい雰囲気の中、患者さまに安心と根拠のある援助看護を提供することができるよう邁進していきます!

患者さまのリハビリをするうえで問題点だけでなく患者さまの退院後の生活まで考え、すべての患者さまを笑顔で退院させたいです。

社会人1年目で不安なこともたくさんありますが、笑顔を忘れずに患者さまやスタッフの皆さんと積極的にコミュニケーションをとり、1日1日を全力で頑張ります。

自分の長所でもある素直さを武器に、日々の学びを自分の成長につなげ、チームアプローチの一員であるという自覚を持ち、患者さまやご家族に寄り添うことを目指し、精進していきたいです。

等々力強い言葉を頂きました。
すでにこの時期、新人研修も終えて新年度の慌ただしさも落ち着き、新たな人生のスタートが始まっています。
頑張れ･･･新人たち!

◆当院へのアクセス

JRの場合
「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合
「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合
「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、
NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。

医療法人 共和会
小倉リハビリテーション病院／介護老人保健施設 伸寿苑／共和会地域リハビリテーションセンター
TEL.093-581-0668(代表) FAX.093-581-3319(共通)
〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 http://www.kyouwakai.net 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!
facebook Instagram

Careline
KYOUWAKAI Press
[ケアライン]2023 春号／「コロナ禍の今、歯科診療の現状(小倉リハ病院の活動から)」
○発行 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院／連携広報部 井上崇

Careline

KYOUWAKAI Press ケアライン
2023 春号

特集 「コロナ禍の今、歯科診療の現状(小倉リハ病院の活動から)」

REPORT 頑張れ…新人たち!

コロナで失われた3年を取り戻す…!

うららかな春の日差しが心地よいこの頃ですが、皆様にはますますご活躍のことと存じます。
共和会では先日、令和5年度の入職式が行われ54名の新入職者が仲間に加わりました。考えるとこれまでコロナ禍にて職員間の交流は制限されこの数年入職式も簡素化してきましたが、こうした行事も少しずつ元に戻りつつあります。新人研修会も全て対面で行いました。他、委員会活動や訪問活動等も感染対策を考慮しながら元に戻す取り組みが始まっています。今年度はそうしたコロナで失われた3年を取り戻していこうと舵を切る年になりそうです。若い職員達のエネルギーに支えられ、コロナから一早く脱していかねばなりません。
そこで機関紙ケアライン春号では「コロナ禍の今、歯科診療の現状(小倉リハ病院の活動から)」と題し当院の活動を紹介しました。コロナ感染症も分類5類へと変更される中、対応の在り方等を歯科医の立場から考えて頂きました。またreportでは「頑張れ…新人たち!」として入職式風景と新人職員のコメントも掲載しています。ご一読下さい。

令和5年4月 医療法人共和会 連携広報部長 井上崇

「コロナ禍の今、歯科診療の現状（小倉リハ病院の活動から）」

小倉リハビリテーション病院 歯科 萩原正剛

2020年の新型コロナウィルスの感染拡大から約3年が経過し、この5月には新型コロナウィルス感染症の分類が2類から5類へと変更されることも決定し、政府をはじめとして世の中全体が感染拡大に対しての対応が徐々に緩和していく流れとなっています。ただ、この3年間は医療や福祉の現場では感染予防や感染拡大防止のための多大な対策や対応に追われ、世の中が感染対策緩和の流れとなっている中でも対 応が引き続き求められる点はあまり変化ないのではないでしょうか。

歯科診療の現場でも新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、様々な対応や対策が行われてきました。特に歯科領域では感染経路として大きく関わる口腔を扱うことから、感染拡大の起点とならないよう、より一層の対応が求められることもあったと思います。

このような中で当科での感染対策や今後の課題などを踏まえつつ、コロナ禍での歯科診療の現状等について話題提供させて頂こうと思います。

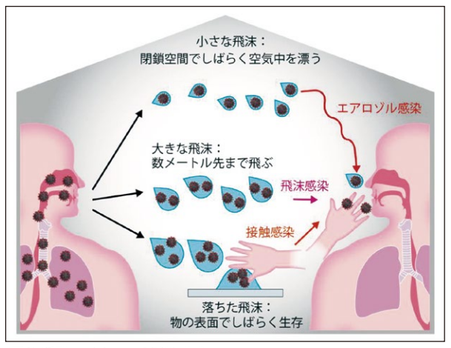
感染対策

ご存知のように感染経路には、下記などのものがあります。

接触感染 （経口感染含む）	手指・食品・器具を介して伝播する頻度の高い伝播経路 ノロウイルス 腸管出血性大腸菌 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）など
飛沫感染	咳、くしゃみ、会話などで、飛沫粒子 (5μm以上)により伝播 1m以内に床に落下し、空中を浮遊し続けることはない インフルエンザウイルス ムンプスウイルス 風しんウイルスなど
空気感染	咳、くしゃみなどで飛沫核 (5μm未満)として伝播し、空中に浮遊し、空気の流れにより飛散 結核菌、麻しんウイルス、水痘ウイルスなど
血液媒介感染	原体に汚染された血液や体液、分泌物が、針刺しなどにより体内に入ることにより感染 B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスなど

この中で新型コロナウィルスでの感染経路対策として中心となるのは接触感染と飛沫感染への対応ですが、この中には含まれない「エアロゾル感染」というものが感染経路対策の中で取り上げられ耳にされた方も多いと思います。（図1）

エアロゾル感染とは「日本医師会 新型コロナウイルス感染症外来診療ガイド」では、「マイクロ飛沫やエアロゾルと呼ばれるウイルスを含むごく小さな水滴からの感染で、換気のできない部屋では3時間以上も空中に浮遊し、感染の原因となりうる。」とされており、アメリカ疾病予防管理センター（CDC）やアメリカ歯科医師会（ADA）などの報告では、このエアロゾルが歯科治療の際の切削器具使用などの処置時に発生するため歯科ではエアロゾル感染を招く可能性があるとされました。このことから、歯科では接触感染や飛沫感染に加えエアロゾル感染への対策がより必要とされ、当科では通常の接触や飛沫感染予防に加え、歯科治療時や病棟での口腔ケア時などにはEB-PPEの着用を行い、併せて歯科診療室では歯科吸引装置の使用に加え空気清浄機の使用や常時換気を行い対応してきました。また、歯科診療時には外来患者と入院患者が接触することがないように予約などの調整を行い、外来患者の診療後には十分な換気時間を設けた後に入院患者の診療を行うようにしたり、感染拡大時期には外来患者の診療は入院患者の診療が全て終了した後に行うなどしたりし、対応を図っておりました。



（図1）新型コロナウィルスの感染様式
公益社団法人 日本歯科医師会
新たな感染症を踏まえた歯科診療ガイドライン 第4版 より一部改変し引用

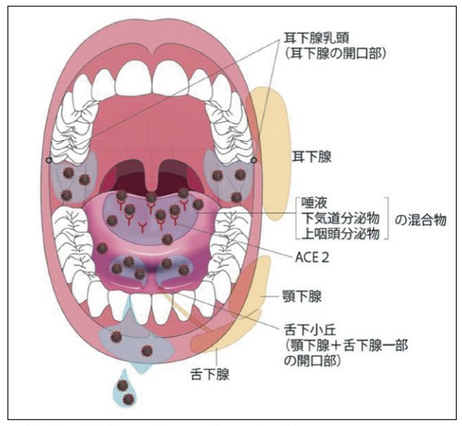
今後の課題

新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、一時期は新型コロナウィルス感染症の治療とは直接関わりがない医療や歯科医療については、患者による「受診控え」と言われる診療延期や受診抑制が行われていました。また、多くの歯科医療機関では2020年4月の厚労省の事務連絡の中に「治療について歯科医師の判断により、応急処置に留めることや緊急性のない治療についての延期も考慮する」とあったことや緊急事態宣言の発令などから、来院患者数の制限、診療時間の短縮、緊急性の高い治療優先の治療制限などを行なった経緯があり、多くの介護施設等の現場では感染予防や感染拡大防止の観点から訪問歯科診療の延期・中止なども行われ中には現在も対応が継続のままとなっている現場もある状況です。これらの事情により歯科疾患の放置や歯科治療開始・介入の遅れによる病状悪化・重症化を認めたり、オーラルフレイルといった口腔機能低下や口腔機能の廃用の進行を認めたりと、様々な影響が生じたことも挙げられており、実際に当科を受診した患者でもそのような経緯で口腔状態の悪化を招いていた症例を数多く見ました。

今後はこのような状況を招くようなことがないよう、歯科では歯科診療の特性を踏まえた感染予防策を取りつつ、感染症拡大の環境下などでも口腔健康管理や歯科治療を行えるようしっかりと対応を図っていくことが必要だと考えられます。

口腔とウィルス

肺炎やインフルエンザなどの感染症の予防に口腔衛生状態や口腔機能の管理の効果があるということはこれまでに幾つも報告されています。口腔はウィルスの重要な侵入口であり、口腔細菌がインフルエンザウィルスの粘膜への吸着・侵入に関与することも分かっており、新型コロナウィルスでは口腔粘膜細胞と結合し口腔内で増殖し唾液中に多く排出されている可能性について示された報告もあります（図2）。また、口腔細菌が新型コロナウィルス感染症の重症化に関与している可能性が示された報告もあることから、口腔管理と新型コロナウィルスの関係については今後の研究結果などを注視する必要はありますが、気道感染症の予防にとって口腔管理は大きな役割を担っていると考えられます。



（図2）口腔内での新型コロナウィルス発現・増殖と排出
公益社団法人 日本歯科医師会
新たな感染症を踏まえた歯科診療ガイドライン 第4版 より一部改変し引用